

がんの早期発見のために 子宮頸がん検診

子宮頸がんは日本人の女性がかかる
がんの中でも比較的多く、
また30～40歳代の女性で近年増加傾向にあります。

検診の流れ

① 問診
(症状があれば報告)

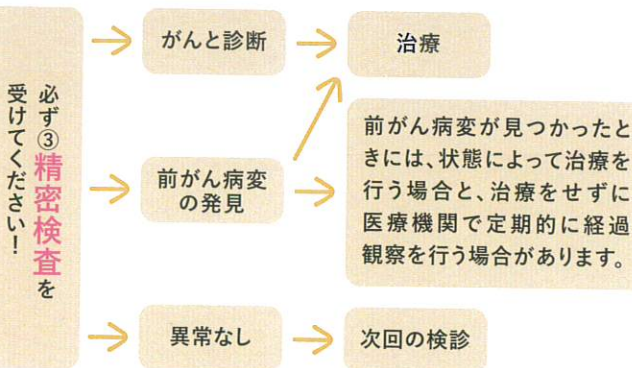
② 子宮頸部の
細胞診

異常なし
(精密検査不要)

異常あり
(要精密検査)

20歳以上の人は、2年に1度、定期的に検診を受けましょう。

子宮頸がんの中には、急速に進行するがんもあります。早期発見のためにも必ず2年に1度、定期的に検診を受けましょう。

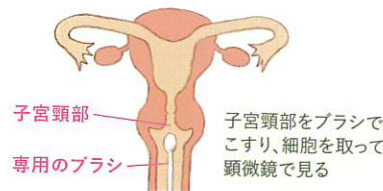


① 問診について

月経(生理)が不規則、月経以外に出血がある、閉経したのに出血があるなど、気になる症状がある場合は問診の際に医師に必ず伝えましょう。不正出血が疑われる症状がある場合は、子宮頸がん検診を待たず、すぐに婦人科のある医療機関を受診してください。また現在婦人科を受診していて経過観察中の方は、検診を受けるのではなく、引き続き受診中の医師の指示を受けてください。

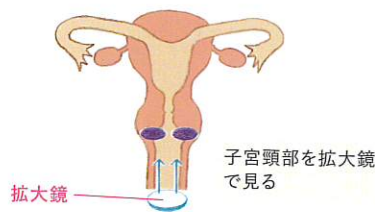
② 子宮頸部の細胞診

子宮頸部(子宮の入り口)を綿棒、ブラシ、またはヘラのような器具でこすって細胞を取り、顕微鏡でがん細胞など異常な細胞がないかを調べます。月経(生理)中を避けて検査を受けてください。



精密検査 ③ コルポスコープ検査 (またはHPV検査)

細胞診で異常が発見されたら、コルポスコープという拡大鏡で子宮頸部の粘膜表面を拡大して細かい部分を観察し診断します。異常な部位見つかったら組織を採取し悪性かどうかを診断します。また細胞診の結果によっては子宮頸がんを引き起こすウイルスの有無を調べるHPV検査を行い、コルポスコープ検査が必要かどうかを判断することがあります。



子宮頸がんの発生要因

子宮頸がんの発生要因は、ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染によるものです。HPVは、性交渉で感染することが知られ、子宮頸がん患者の90%以上からHPVが検出されます。HPVの感染自体はまれなものではなく、性交経験のある女性はほぼ何らかのHPVに感染していると考えられています。そして感染しても多くの場合症状が出ないうちにHPVは排除されるものの、排除されずに感染が続くと一部に子宮頸がんが発生すると考えられています。また喫煙も子宮頸がんの危険因子であるとされます。

がんを予防するためには…

「禁煙」「節酒」「食生活」「身体活動」「適正体重の維持」
これら5つの生活習慣を実践することが大切です。

※国立がん研究センターの調査では、この5つを実践する人は実践しないもしくは1つしか実践しない人よりも、男性で43%、女性で37%がんになるリスクが低くなるという推計が示されています。

